

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272400342		
法人名	有限会社修清		
事業所名	グループホーム宝森		
所在地	青森県北津軽郡中泊町中里中里字宝森291-1		
自己評価作成日	令和2年10月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3-20-30		
訪問調査日	令和2年12月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が楽しく、安心して毎日を過ごしていただけるかを念頭に置いた処遇を心掛けている。また、利用者の高齢かつ重度化に伴い、当ホームの看護師を中心に、近い将来のターミナルケア体制についても対応できるよう万全の体制としている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

立地条件が良く、町役場や文化ホール、消防署が近くにある。またスーパー等の商業施設も近く、生活しやすい環境にある。看取りの指針があり、最後まで住み慣れたホームで生活ができるので、利用者・家族が安心して入所できている。看取りを希望しない場合は、医療機関等と話し合いをして、適切な入所先へつなぐ等の支援をしている。定期的に職員会議やカンファレンスを開催しているため、職員は意見を述べる事ができ、管理者・職員と一緒に利用者のことやホームの運営について話し合い、方針を共有することができ、一緒に働いているという意識がある。職員間の風通しがよいので、利用者も自然に笑顔になり、家族も含めて、温かい支援がされており、地域密着型グループホームの理念を実践している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、職員が常に見える場所に掲示して確認している。	ホーム独自の理念があり、ホーム内に貼り出し、職員会議等で理念を共有している。管理者・職員は、地域密着型サービスの意義をふまえ、福祉サービス提供の現場で実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の高校や中学校の文化祭に参加している。また、知人が訪ねやすいように笑顔を中心掛けている。	近くに住宅がないため町内会には加入していないが、敷地内にデイサービスがあり、通っている人がホームに立ち寄って入所者と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域ケア個別会議に地域のグループホーム代表として参加している。中学校の職場体験の受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を书面開催(新型コロナウイルス感染防止のため)し、サービス向上について意見をいただいている。	コロナ禍以前は、2ヶ月に1回運営推進会議を開催して、利用者やサービスの現状、外部評価について話し合いをしている。現在は資料を送付し、電話で意見を聞いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	書類等で不明な点については、その都度市町村担当者に問い合わせをしている。また、運営推進会議で情報交換を行っている。	運営推進会議に役場担当課が出席している。連絡を密に取り、ホームの運営状況等を伝えながら協力関係を築いている。また、福祉事務所と連絡を取り合い、一緒に利用者支援に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、職員会議で勉強を行っている。身体拘束廃止委員会を立ち上げ、3ヶ月に1回、身体拘束廃止に向けての取り組みを行っている。	身体拘束廃止に関わる委員会を3ヶ月に1回開催している。玄関や居室の施錠はしておらず、日常的に身体拘束を行っていない。必要時はマニュアルに沿い、同意書を取り、用意している様式に記録している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法については、職員会議で勉強会等を行い、職員全員に周知徹底している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料をマニュアルと一緒に綴っており、いつでも確認できるようにしている。また、勉強会を行って情報を共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や面会時等、疑問があるときは、いつでも職員に説明を求めるように呼びかけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時等に、不満な点を話せるように日頃から会話するよう心掛けている。「家族との交流会」は行っていないが、「クリスマス会(忘年会)」を企画して、交流を図っている。	苦情受付等については、入所時に重要事項説明書に沿って説明をしている。運営推進会議に家族が参加することができる。意見や要望を管理者や職員、外部者へ伝える機会を設けており、改善に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者と管理者が集まる会議を実施している。また、代表者が機会あるごとに事業所に顔を出して、職員に意見等を求める等している。	毎月1回職員会議があり、職員は意見や要望を管理者等に話す機会があり、ホームの運営に活かしている。毎朝申し送りの時間があり、日常的に管理者や他職員に相談したり、話し合う機会がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員一人ひとりの勤務状況や勤務態度を総合的に判断し、給与や手当等に反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりに適した研修等に参加を促している。パンフレットや案内を掲示して、自主的に参加できるようにしている。月1回の職員会議で報告する形の勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム交流会(3ヶ月に1度)に参加して、意見を交わし、サービスの向上に役立っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前は、自宅や入院している病院に行き、利用者の生活歴や現状の把握をしている。また、本人の話に耳を傾け、家族の面会時に一緒に話し合いながら、本人に楽しく生活してもらえる工夫をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族から話を聞いて、利用者及び家族の抱えている不安を取り除いている。利用者、家族、ホームが一体となった関係性を保てるように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今までの様子を家族から聞き取りし、最も必要なサービスを代表者や管理者、ケアマネジャー、看護師等で話し合い、支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者に洗濯たたみを手伝っていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の協力なしに利用者を支援することは困難なため、利用者、家族、ホームが一体となった関係を築けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	顔馴染みやデイサービスと一緒に通った友人等からの面会があった際は、歓迎している。	入所前の生活歴を把握しており、家族等からも話を聞いている。利用者が交流していた人たちとの関係が途切れないように、面会や電話、外出等を通して交流に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の水分補給時に、一緒に会話をしたり、軽作業を行う等して、利用者同士の交流を図っている。利用者の特徴を把握し、座席を考え、楽しく会話できる関係作りに配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後、他施設等へ移った後でも、必要に応じて支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本位のサービスをモットーに、カンファレンス前に担当職員が希望を聞いて、職員間で話し合い、できるだけ希望に沿ったサービスを心掛けている。	担当制になっているが、職員全体で利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向を把握するようにしている。困難な場合は、職員の気づき等を話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者及び家族から生活歴を聞いて、利用者の意思を尊重しながら支援している。また、新しく得た情報は、随時共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りノートを活用し、共有している。毎日の健康チェックで体調の把握にも努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議や日頃の業務の中で、職員同士で話し合っている。周知されるようにノートに記入し、統一した支援方法を考え、見直しを行っている。	アセスメントを行い、的確なケアプラン作成をするように、利用者や家族、必要な関係機関等と話し合いをしている。現状に合った介護計画を作成しており、定期的にモニタリングしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々にファイルを作成し、日々の生活や気づきを記録して、ケアの実践に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調や状態の変化の際は、その都度検討して、対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町民祭に利用者の作品を出品する等、地域行事の参加を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者と家族からかかりつけ医を確認している。転院等の変化があるときには家族へ報告して、その都度対応している。	入所前の病院を継続して受診することもできるが、ホームのかかりつけ医に変更することもできる。受診は、利用者及び家族等の希望を聞き、適切な医療を受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の健康管理や状態変化に応じた支援ができるように看護師を配置している。連携を取りながら、受診や医務的処置を行っており、夜間や急変時でも相談することができる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、医療機関に適切な情報(サマリ)を提供している。定期的に地域連携室に連絡して、状態の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、看取り介護の指針の説明をして、同意を得ている。状況に応じて、その都度話し合いを行い、関係者全体の意思統一を図って支援をしている。	看取りの指針があり、入所時から重度化した場合や終末期のあり方について、利用者・家族等と話し合いを行っている。ホームでできることを説明して、方針を共有し、医療機関や関係機関とチームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員会議での勉強会のほか年2回の救急法を実施して学んでいる。また、普通救命講習に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協体制度を築いている	年2回(1回は夜間を想定)、定期的に火災避難訓練を行っている。	年2回、火災や地震等の災害時に利用者と職員が避難できるように夜間を想定した訓練を実施している。消防署等、被害時には協力が得られるように地域と連携している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者を傷つけないような言葉掛けで対応するようにしている。マニュアルを作成して、勉強会を実施し、職員全体に周知している。	利用者や家族の了解を得て、利用者は名前にさん付けで呼んでいる。利用者一人ひとりの人格を尊重して、プライバシーに配慮し、個人の尊厳を大事にした声掛けや対応をするように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話等から、一人ひとりの希望や好みを把握している。介護ショップで好きなおやつを購入している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴の時間はある程度決められているが、希望に応じて買物や散歩等、一人ひとりに合わせた外出支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着たい服を選んでいただいたり、鏡の前で身だしなみを整えている。3ヶ月に1回、出張散髪に来ていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	重度化により一緒に準備等できていないが、一人ひとりの嗜好を聞き、できるだけ希望に沿った献立を作成している。(栄養のバランスを考慮)	献立は法人の栄養士が作成して、配食を利用している。利用者の嗜好を把握し、管理者が月1回の給食会議に出席している。職員は、食事中は介助や見守りで席に着いている。できる利用者には片付けをしてもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりのチェック表を作成して、水分量や食事量を把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後に口腔ケアを行い、チェック表で確認している。口腔ケアスポンジやガーゼを使用している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用して、一人ひとりの排泄パターンを把握している。事前誘導や夜間のみオムツ着用を試みている。また、ポータブルトイレを利用する等、自立に向けた支援を行っている。	利用者一人ひとりの排泄を記録している。カンファレンス等で排泄の失敗やおむつの使用を減らすように検討している。一人ひとりに定期的な声掛けを行って、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維を取り入れている。医務に相談しながら下剤の調整や歩行訓練を行って、便秘を解消している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	週3回の入浴を行っているが、夏の暑い日等は、シャワー浴で対応することもある。一人ひとりの希望に合わせた支援を行っている。	週3回の入浴を実施している。順番や入り方を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望に応じた支援をしている。入浴拒否の利用者には、できるだけ入浴していただけるように声掛け等を工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気の良い日は日光浴を行っている。長時間の昼寝を避けて、昼夜逆転をしないようにして、夜間の安眠につなげている。室内の温度と湿度を確認している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が服薬管理を行っている。薬の説明書を個別に仕分けをして、周知している。服薬の際は、複数の職員で確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴や得意な事等に合わせ、それぞれ役割をしてもらいながら、張りのある生活ができるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、散歩や買物等、希望に沿って行っている。お盆の時期には、家族の対応でお墓参りを行っている方もいる。	コロナ禍前は、定期的に外出していたが、現在は個別に買い物等に出かけることができるように努めている。利用者の希望を把握して、家族の協力を得ながら墓参り等に出かけられるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が難しい利用者がほとんどであるが、管理が可能な利用者には少ない金額を所持してもらっている。紛失には十分注意している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書く利用者はいないが、電話をする利用者には支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや玄関等に、季節が分かるような飾り付けをしたり、畑で野菜を収穫する等して季節を感じるようにしている。	玄関や廊下、ホール、浴室、トイレ等は、清潔に掃除しており、快適に過ごすことができるように配慮している。壁紙等に季節感を採り入れ、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ等を設置して、常に入居者が集まり、気ままに過ごせるような自由な空間作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際、自宅で使用していた家具等を持って来ていただくほか、写真を自由に飾る等、利用者が居心地よく過ごせるように工夫している。	持ち込みは自由で、在宅時の物を継続して使用することもできる。居室は、利用者や家族と相談しながら担当と一緒に使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせる居室作りをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて、手すりや浴室、トイレ等の居住環境が適しているかを見直して、安全かつ自立した生活を送れるよう配慮している。		